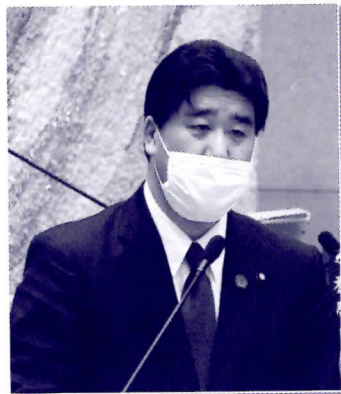




青山ゆたか

12月9日

一般質問  
要旨



インターンシップ促進  
支援事業について

**質問** 「横手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の具体的取り組みのひとつであるインターンシップ促進支援事業について、昨年度までの実績を踏まえた検証状況と今年度の進捗状況、来年度以降の方向性について伺う。

**答弁** 市内企業のインターンシップに参加した大学生に対

して、宿泊費・交通費を上限2万円の範囲内で助成する「インターンシップ促進支援事業補助金」を実施、県内の多くの大学生に活用いただいた。今年度は市内企業に対し、プログラム作成支援や効果的な運営支援を専門家に委託する場合の経費を助成する「インターンシップコーディネート活用事業補助金」を実施しているが、新型コロナウイルスの影響で成果が出ていない。来年度以降は市内企業が魅力あるインターンシップを行えるよう引き続き後押しするとともに、県外の大学生が参加しやすい環境を支援するべく検討している。

**質問** 検証状況についての答弁がなかった。詳しく説明してほしい。

**答弁** インターンシップ参加者に簡単なアンケートをとった結果、市内就職2名、県内就職2名であった。残念ながらインターンシップ実施企業への就職はなかった。

**質問** それで検証は足りるのか？市内に戻ってきたならば、なぜ戻ってきただのか？逆に戻ってこなかったのなら、そ

れはなぜか？そこまで突っ込んで聞かないと今後の事業展開の参考にならないのではな

**答弁** 指摘のとおりだと思う。なぜ？という視点も組み入れていきたい。

**質問** 学生に対する補助金交付をやめてしまったのは残念だ。インターンシップは就職活動のワンステップ。そうした状況の中で中央の大手企業とイコールコンディション（対等な条件）にするためにも、補助金復活は必須だと思いがどうか？

**答弁** 県外からの参加を促す施策として必要だと考えている。次の計画の中で、学生への直接的支援を考えていきたい。

**質問** 学生への事業周知は現状で精一杯やっていると思うが、

一方的になりがちだ。この事業をより良いものにするためにも、「学生の本音」をもっと聞くことが重要。双方方向のコミュニケーションツールづくりを民間の知恵を借りながら検討してみてもどうか。

**答弁** 貴重な提案だ。学生とのつながりを模索していくのは今後も大事になってくる。考える全ての方法を駆使し、官民一体で取り組んでいきたい。

インドネシア共和国との  
交流事業について

**質問** 東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン登録を契機に、相手国であるインドネシア共和国との交流事業を行っている。それ自体に異論はないが、具体的にどのようなビジョンで取り組むのか今ひとつ見えてこない。スポーツ交流、農業交流、そしてインバウンドを含む経済交流について現状と今後の方向性を伺う。

**答弁** スポーツ交流については、今年度インドネシアよりジュニアチームを迎えて交流事業を実施する予定だったが、新型コロナの



▲インターンシップ促進  
支援事業の充実を